

平成21年産米における生産調整の取組状況

都道府県名	生産数量目標 ①	①を面積換算したもの ②	水稲作付面積 ③		加工用米面積 ④		新規需要米等面積 ⑤		主食用水稲作付面積 ⑥-③-④-⑤		⑥-②	作況指数 ⑧
			ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha		
全国	8,150,020	1,542,849	1,637,000	26,126	18,906	1,591,968	49,100	98				
北海道	605,720	113,430	114,500	1,868	101	112,532	▲ 898	89				
青森	266,780	46,000	49,300	1,488	259	47,553	1,553	101				
岩手	295,830	55,500	56,900	1,373	567	54,960	▲ 540	100				
宮城	382,730	72,210	74,500	1,142	1,257	72,101	▲ 109	100				
秋田	467,160	81,615	90,400	3,573	1,255	85,572	3,957	99				
山形	382,861	64,451	68,600	2,004	1,078	65,518	1,067	100				
福島	365,000	68,134	81,400	423	783	80,194	12,060	101				
茨城	355,040	68,280	77,500	1,152	571	75,778	7,498	100				
栃木	321,240	59,600	64,200	1,069	1,028	62,103	2,503	101				
群馬	83,160	16,835	18,400	256	335	17,809	974	101				
埼玉	161,140	32,655	35,900	114	356	35,431	2,776	101				
千葉	262,030	49,730	62,300	267	423	61,610	11,980	99				
東京	930	230	186	0	0	186	▲ 44	99				
神奈川	14,930	3,070	3,220	0	3	3,217	147	102				
新潟	575,040	106,948	118,400	5,516	1,716	111,167	4,219	99				
富山	207,140	38,720	39,600	1,288	88	38,224	▲ 496	100				
石川	134,373	25,990	26,400	423	58	25,918	▲ 72	98				
福井	136,330	26,370	26,900	637	148	26,115	▲ 255	97				
山梨	28,817	5,290	5,330	20	21	5,290	▲ 0	96				
長野	208,419	33,474	34,700	330	129	34,241	768	96				
岐阜	121,770	24,953	25,100	95	321	24,685	▲ 268	94				
静岡	87,310	16,710	17,900	37	244	17,619	909	97				
愛知	144,140	28,430	31,200	258	128	30,814	2,384	98				
三重	150,020	30,063	31,100	341	241	30,518	454	96				
滋賀	174,810	33,750	33,300	458	153	32,689	▲ 1,061	99				
京都	80,880	15,842	15,800	67	25	15,708	▲ 134	95				
大阪	27,970	5,678	5,840	1	3	5,836	158	100				
兵庫	193,400	38,370	38,800	392	180	38,229	▲ 142	98				
奈良	43,570	8,500	9,350	9	31	9,310	810	100				
和歌山	36,830	7,474	7,650	0	2	7,648	175	100				
鳥取	72,510	14,106	14,300	85	193	14,022	▲ 84	94				
島根	98,050	19,261	19,500	129	212	19,159	▲ 102	96				
岡山	167,000	31,773	33,900	153	318	33,429	1,656	102				
広島	138,370	26,461	26,200	164	150	25,886	▲ 575	100				
山口	121,870	24,180	23,800	0	50	23,750	▲ 430	99				
徳島	60,840	12,847	13,800	0	51	13,749	902	99				
香川	76,640	15,361	15,200	0	14	15,186	▲ 175	99				
愛媛	79,840	16,030	15,600	0	43	15,557	▲ 473	99				
高知	51,980	11,363	13,600	0	51	13,549	2,186	102				
福岡	197,260	39,530	39,900	409	497	38,994	▲ 536	100				
佐賀	143,950	27,260	27,000	90	100	26,810	▲ 450	100				
長崎	66,340	14,001	14,100	12	60	14,028	27	101				
熊本	206,460	40,090	42,100	348	2,507	39,244	▲ 846	100				
大分	126,470	25,140	25,400	29	616	24,756	▲ 384	100				
宮崎	103,150	20,921	22,400	18	2,200	20,182	▲ 739	104				
鹿児島	120,600	25,180	25,000	88	335	24,577	▲ 603	103				
沖縄	3,220	1,044	948	0	7	941	▲ 103	103				

注1:①は果間調整後の数値。

注2:⑥は、統計部公表の水稲作付面積から加工用米・新規需要米等面積を除いた数値。

注3:新規需要米等面積は、新規需要米認定面積のほか、新規需要米扱いとなっていない青刈り分を含む。

注4:なお、この表による生産調整達成都道府県は25都道府県となるが、このほか出入り作の調整により達成する山形県・三重県・和歌山県・長崎県を含めた29都道府県が達成となる。

出所：平成21年11月 農林水産省
最近の米をめぐる関係資料

資料5 三大穀物の世界生産状況と貿易の状況

5 - コメ

世界の米生産の状況 (単位: 百万トン)

年度	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計	401.4	418.5	420.6	431.3	439.1	1.8	100
中国	125.4	126.4	127.2	130.2	135.1	3.7	31
インド	83.1	91.8	93.4	96.4	97.5	1.1	22
インドネシア	34.8	35.0	35.3	35.8	36.3	1.3	8
バングラデシ	25.6	28.8	29.0	28.8	29.6	2.8	7
ベトナム	22.7	22.8	22.9	24.4	23.5	▲ 3.6	5
(参考)タイ	17.4	18.2	18.3	19.3	19.5	1.0	4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (January 2009)」、 「Grain: World Markets and Trade (January 2009)」、 「PS&D」

世界の米貿易の状況 (単位: 百万トン)

	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計 (輸出国)	28.5	30.4	31.3	30.4	29.8	▲ 2.2	100
タイ	7.3	7.4	9.6	10.0	9.5	▲ 5.0	32
ベトナム	5.2	4.7	4.5	4.7	5.2	11.8	17
パキスタン	2.8	3.7	2.8	3.0	4.0	33.3	13
米国	3.5	3.7	2.9	3.5	3.2	▲ 6.4	11
インド	4.6	4.7	5.5	4.1	2.5	▲ 39.0	8
(輸入国)							
フィリピン	1.5	1.6	1.8	2.7	2.5	▲ 7.4	-
ナイジェリア	1.4	1.8	1.6	1.6	1.6	3.2	-
イラン	1.0	1.3	1.1	1.1	1.4	27.3	-
バングラデシ	0.7	0.5	0.8	1.9	1.3	▲ 32.2	-
EU27	1.1	1.1	1.3	1.6	1.2	▲ 23.4	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (January 2009)」、 「Grain: World Markets and Trade (January 2009)」、 「PS&D」

注: 1) 年度区分は、2008/09年度についてみると、生産量は北半球の2008年後半と09年初めに収穫されるもの、及び南半球の2009年の前半に収穫されるものの計(見込み)であり、消費量、貿易量、期末在庫量は各国市場年度(末)の計(見込み)である。

2) 貿易量とは輸出量を意味する。

3) 期末在庫率の対前年度増減率は前年度とのポイント差である。

4) 全て精米ベースである。

出所: 農林水産省 海外食料需給レポート2008

5 - 小麦

世界の小麦生産の状況 (単位: 百万トン)

年 度	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計	625.7	620.0	596.1	610.2	682.9	11.9	100
EU27	146.9	132.4	124.9	119.4	150.5	26.0	22
中国	92.0	97.4	108.5	109.3	113.0	3.4	17
インド	72.2	68.6	69.4	75.8	78.4	3.4	11
米国	58.7	57.2	49.2	55.8	68.0	21.9	10
ロシア	45.4	47.7	44.9	49.4	63.0	27.5	9
(参考)							
カナダ	24.8	25.7	25.3	20.1	28.6	42.7	4
ウクライナ	17.5	18.7	14.0	13.9	25.5	83.5	4
オーストラリア	21.9	25.2	10.8	13.0	20.0	53.4	3
アルゼンチン	16.0	14.5	15.2	16.3	9.5	▲ 41.7	1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (January 2009)」、 「Grain: World Markets and Trade (January 2009)」、 「PS&D」

世界の小麦貿易の状況 (単位: 百万トン)

年 度	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計	111.2	116.8	111.2	115.4	123.9	7.4	100
(輸出国)							
米国	29.0	27.3	24.7	34.4	27.2	▲ 20.9	22
カナダ	14.9	16.0	19.4	16.1	19.0	17.9	15
EU27	14.7	15.7	13.9	12.2	19.0	55.4	15
ロシア	8.0	10.7	10.8	12.2	15.0	22.7	12
オーストラリア	14.7	16.0	8.7	7.5	13.0	73.3	10
(参考)							
ウクライナ	4.4	6.5	3.4	1.2	9.0	628.2	7
アルゼンチン	11.8	9.6	10.5	10.5	4.3	▲ 59.0	3
(輸入国)							
エジプト	8.2	7.8	7.3	7.7	7.8	1.3	-
ブラジル	5.0	6.6	7.6	7.0	7.0	0.0	-
EU27	7.1	6.8	5.1	6.9	6.0	▲ 13.4	-
アルジェリア	5.4	5.5	4.9	5.9	5.6	▲ 4.9	-
インドネシア	4.7	5.0	5.6	5.2	5.6	7.4	-
(参考)							
日本	5.7	5.5	5.7	5.7	5.5	▲ 3.5	-
イラン	0.2	0.4	1.1	0.2	4.5	2150.0	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (January 2009)」、 「Grain: World Markets and Trade (January 2009)」、 「PS&D」

- 注: 1) 年度区分は、2008/09年度についてみると、生産量は北半球の2008年産冬小麦(収穫は6月~8月)、同春小麦(同8月~10月)及び南半球の冬小麦(同11月~09年2月)の計(見込み)であり、消費量、貿易量、期末在庫量は各国市場年度(末)の計(見込み)である。
- 2) 貿易量とは輸出量を意味する。
- 3) 期末在庫率の対前年度増減率は前年度とのポイント差である。

出所: 農林水産省 海外食料需給レポート2008

5 - とうもろこし

世界のとうもろこし生産の状況 (単位: 百万トン)

年 度	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計	715.7	699.1	712.4	791.5	791.0	▲ 0.1	100
米 国	299.9	282.3	267.5	331.2	307.4	▲ 7.2	39
中 国	130.3	139.4	151.6	152.3	165.5	8.7	21
EU27	66.5	60.7	53.8	47.7	61.2	28.4	8
ブラジル	35.0	41.7	51.0	58.6	51.5	▲ 12.1	7
メキシコ (参考)	22.1	19.5	22.4	22.7	25.0	10.4	3
アルゼンチン	20.5	15.8	22.5	20.9	16.5	▲ 20.9	2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (January 2009)」、 「Grain: World Markets and Trade (January 2009)」、 「PS&D」

世界のとうもろこし貿易の状況 (単位: 百万トン)

年 度	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計 (輸出国)	77.6	81.0	93.8	95.5	76.9	▲ 19.5	100
米 国	46.2	54.2	54.0	61.9	44.5	▲ 28.2	58
ブラジル	0.7	4.5	10.8	7.0	9.5	35.7	12
アルゼンチン	14.6	9.5	15.3	15.0	9.0	▲ 40.0	12
ウクライナ	2.3	2.5	1.0	2.1	3.5	68.8	5
南アフリカ共和国	2.1	0.5	0.5	2.0	2.5	25.0	3
EU27	0.7	0.4	0.7	0.6	2.0	238.4	3
(輸入国)							
日 本	16.5	16.6	16.7	16.6	16.5	▲ 0.7	—
メキシコ	5.9	6.8	8.9	9.6	8.0	▲ 16.3	—
韓国	8.6	8.5	8.7	9.3	7.2	▲ 22.7	—
エジプト	5.4	4.4	4.8	4.2	4.0	▲ 3.6	—
台湾 (参考)	4.6	4.5	4.3	4.2	4.0	▲ 4.8	—
EU27	2.5	2.6	7.1	14.0	2.0	▲ 85.7	—

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (January 2009)」、 「Grain: World Markets and Trade (January 2009)」、 「PS&D」

- 注: 1) 年度区分は、2008/09年度についてみると、生産量は北半球の2008年産(収穫は9月～11月)及び南半球の2009年産(同3月～7月)の計(見込み)であり、消費量、貿易量、期末在庫量は各国市場年度(末)の計(見込み)である。
 2) 貿易量とは輸出量を意味する。
 3) 期末在庫率の対前年度増減率は前年度とのポイント差である。

出所: 農林水産省 海外食料需給レポート2008

資料6 米粉生産状況

	平成18年	平成19年	平成20年
1位	新潟(25, 829t)	新潟(27, 403t)	新潟(28, 719t)
2位	栃木(11, 911t)	兵庫(15, 561t)	兵庫(12, 161t)
3位	兵庫(10, 066t)	栃木(10, 022t)	栃木(10, 272t)
全国計	103, 396t	114, 874t	109, 805t

農林水産省調査

出所：「米粉及びその利用食品の開発」
新潟県農業総合研究所 食品研究センター

新潟の優れた加工技術が提供する『2種類の微細米粉』について、その価値や魅力についてご紹介いたします。

二段階製粉米粉

用途



優れた食味

- 商品の『食感』や『舌ざわり』が向上し、高品質化が図られます。
- 米菓では、水分が多く澱粉の損傷が少ないことから、商品の『浮き』や『伸び』が良くなり、ふわっとした仕上がりで、『口溶けの良い』商品に仕上がります。
- 団子、大福などでは『コシ』や『粘り』がある和菓子を作ることができます。

優れた品質特性

- 『粒子が揃った粉体が形成』され、『粉砕熱による澱粉の損傷』は少ない。
- 粒径は『30ミクロン以下』と小麦並。
- 吸水性が高く、和生菓子類の『日持ちが向上』します。



『食物アレルギー』の悩みをもつ消費者に
対しての商品づくりが可能

原産米の指定や『産地・銘柄等の表示』も容易であり、消費者の安心感が確保

酵素処理製粉米粉

用途



優れた食味

- 商品の『もちり感』や『しっとり感』のある食感・風味が、米や麦などの水分が多く食べやすい食品を好む日本人の嗜好にマッチ。
- パンは、含水率が高いため『外側がパリッ』としていて、『内側がしっとりなめらか』。小麦パンのばさばさした食感を敬遠していた高齢者の方々にものごしがり良く、食べやすいため受け入れやすい。また、和食食材との相性も非常に良く、メニューも豊富に。

優れた品質特性

- 『粒子が揃った粉体が形成』され、『粉砕熱による澱粉の損傷』は少ない。
- 米粉は『脂肪の吸収を抑える。持久力を高める。』効果があることが実験で証明されています。
- パンの扱いには『ご飯』と同じ。冷凍や冷蔵による保存性が小麦パンより優れていて、温め直すと同じ『食感』が味わえます。
- 粒径は『40ミクロン』と小麦並。吸水性が低く、小麦用途に適しています。

地産地消の取組を通じた『環境に優しい食
べ方』を推進～水田のもつ環境保全等の機能、
フードマイレージの『Co2削減』など

平成21年産新規需要米の取組計画認定状況

	①飼料用		②米粉用		③輸出用		④バイオエタノール用		⑤青刈り稲・わら専用用・稲壳砕屑飼料		⑥生食用以外の用途のための種子		⑦その他の用途が主食用米の需給に影響を及ぼさないもの		合 計
	数量(トン)	面積(ha)	数量(トン)	面積(ha)	数量(トン)	面積(ha)	数量(トン)	面積(ha)	数量(トン)	面積(ha)	数量(トン)	面積(ha)	数量(トン)	面積(ha)	
合計	23,264	4,123	13,041	2,401	926	164	2,314	295	10,947	304	62	804	150	18,142	
北海道	17	3	150	31	4	1	105	15	49	4	1	0	0	99	
青森	733	130	145	27	12	2			100	9	2		0	259	
岩手	1,514	265	262	53	1	0			243	9	2		0	563	
宮城	2,389	406	287	52	50	9			784	25	5	5	1	1,257	
秋田	761	127	3,132	461	416	72			587	21	3		1	1,252	
山形	3,706	614	233	41	198	33			357	43	7	25	4	1,057	
福島	1,869	350	121	23	3	1			390	6	1	8	2	767	
茨城	775	122	40	7	1	0			381	13	3	0	1	515	
栃木	2,235	412	774	153	16	3			458	10	2			1,028	
群馬	60	12	515	111	3	1			210	4	1			335	
埼玉	233	45	898	209	1	0			101	1	0	4	1	356	
千葉	689	126	459	86	8	2			150					364	
東京															
神奈川															
新潟	77	14	3,842	683	140	25	2,209	280	224	1	0	16	3	3	
富山	264	37	41	7	35	7	1	0	32			332	56	1,282	
石川	17	3	65	13	2	0			5			15	87	3	
福井	300	56	81	16	0	0			76			195	35	56	
山梨	6	1	32	6	0	0			3			55	10	148	
長野	136	24	146	23	5	1			80			2	1	129	
岐阜	1,096	239	41	8	1	0			65	18	5			318	
静岡	418	80			1	0			128					208	
愛知	316	63	112	22	0	0			39					124	
三重	183	26	171	35	17	4			121	5	1			186	
滋賀	140	25	57	11	0	0			118			0	0	153	
京都	61	9	10	2	0	0			12			1	0	24	
大阪			10	2								1	0	2	
兵庫	25	5	75	15	1	0			97	0	0	117	23	140	
奈良	1	0	71	15	0	0			13	1	0			29	
和歌山	8	2												2	
鳥取	72	10	49	10	0	0			170	1	0			190	
島根	549	83	4	1	1	0			127			0	0	212	
岡山	163	33	376	71	1	0			213	1	0			318	
広島	20	4	37	5	3	1			135	15	3	0	0	148	
山口	41	8	33	7	1	0			30	6	1			47	
徳島	31	7	94	20					24					51	
香川	20	3	12	3	0	0			8			1	0	14	
愛媛	5	1			1	0			41					43	
高知	99	26	52	12	0	0			8			20	5	51	
福岡	647	95	54	12	2	0			388	9	2			497	
佐賀	168	32	6	2					65	2	0			99	
長崎	81	17	2	0	1	0			38			1	0	57	
熊本	1,343	246	523	100	1	0			2,146	41	8	2	1	2,501	
大分	1,028	212	45	8					393	10	2			616	
宮崎	883	134	134	23	1	0			2,028	47	14	3	1	2,199	
鹿児島	82	14	52	11					304	9	2			332	
沖縄									5					5	

注1:生産調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を挙げたもの。
 注2:⑦その他の取組には、19年度まで実施していた消費増進策の取組が含まれている。

出所：平成21年11月 農林水産省
 最近の米をめぐる関係資料

○ MA米の状況

○ MA米の輸入数量(輸入先国別)

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	合計	
アメリカ	19	23	29	32	34	36	36	36	36	36	36	36	36	36	40	465
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15	19	19	18	25	26	26	240
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11	10	9	8	8	7	7	117
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9	2	2	5	-	-	-	100
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5	10	11	10	1	0	0	53
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76	77	77	77	70	73	73	975

(単位:万玄米トン)

注:20年度分については、平成21年10月末時点で未通関のものを除く。

○ MA米の販売状況(年度別)

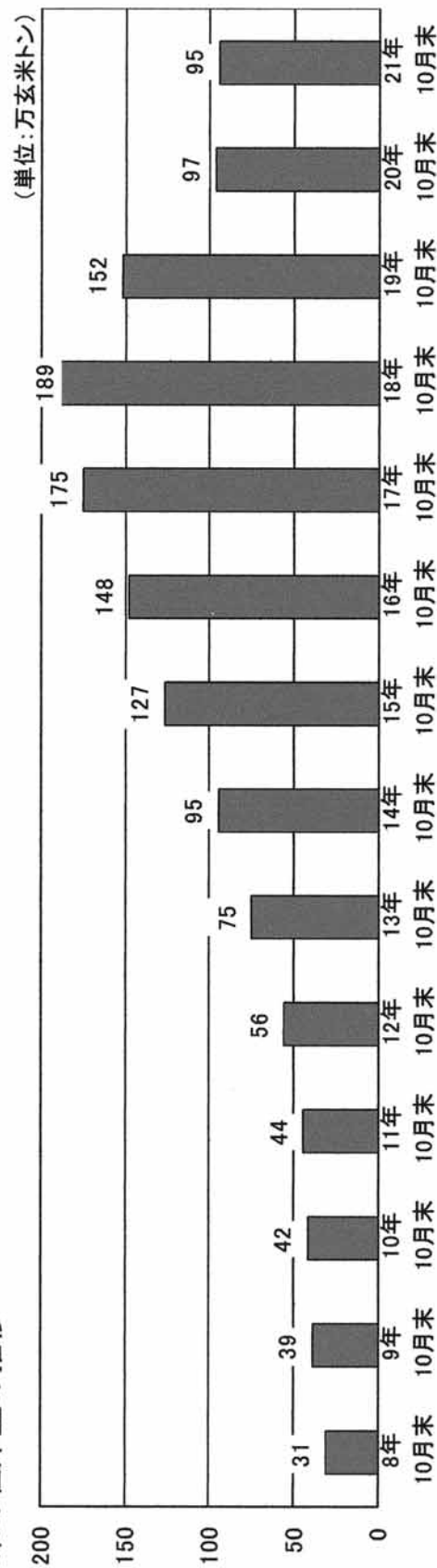
	8RY	9RY	10RY	11RY	12RY	13RY	14RY	15RY	16RY	17RY	18RY	19RY	20RY	21RY	合計
販売先	12	43	57	61	60	58	57	45	60	50	63	114	125	75	880
主食用	-	3	4	10	10	9	10	4	6	8	10	11	10	8	103
加工用	12	28	19	28	24	28	24	21	32	25	25	37	37	22	362
援助用	-	12	34	23	26	21	23	20	22	17	13	8	12	20	251
飼料用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	58	66	25	164
合計	12	43	57	61	60	58	57	45	60	50	63	114	125	75	880

(単位:万玄米トン)

注1:RY(穀年度)とは前年11月から当年10月までの1年間である(例えば20RYであれば、平成19年11月から平成20年10月まで)。

注2:四捨五入の関係で、合計と内訳が一致しない場合がある。

○ MA米の在庫量の推移



出所:平成21年11月 農林水産省
最近の米をめぐる関係資料

○ 商業用のコメの輸出数量等の推移

	2004年 (平成16年)		2005年 (平成17年)		2006年 (平成18年)		2007年 (平成19年)		2008年 (平成20年)		2009年(1~9月) (平成21年)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	408 (+9%)	235 (+23%)	634 (+55%)	320 (+36%)	967 (+53%)	427 (+34%)	940 (-3%)	527 (+24%)	1,294 (+38%)	641 (+21%)	771 (-6%)	335 (-23%)
台湾	183	77	413	169	593	161	450	175	453 (+1%)	168 (-4%)	181 (-23%)	65 (-26%)
香港	115	65	99	57	155	74	218	119	341 (+56%)	172 (+45%)	327 (32%)	139 (9%)
シンガポール	63	45	63	35	63	40	92	48	173 (+88%)	81 (+68%)	115 (2%)	53 (-3%)
中国	18	5	0	0	2	7	72	43	90 (+25%)	52 (+21%)	0	0
ロシア	0	0	0	0	0	1	4	3	63 (+1475%)	28 (+801%)	7 (-87%)	2 (-92%)
米国	6	15	16	25	128	99	41	71	26 (-37%)	49 (-31%)	8	19 (-48%)
英国	4	8	6	9	4	16	4	18	9 (+125%)	18 (+1%)	15 (114%)	10 (-32%)
タイ	5	3	5	3	1	1	21	8	7 (-67%)	8 (+4%)	1	3 (-26%)
フランス	2	3	3	2	1	10	3	14	5 (+67%)	9 (-32%)	4 (±0%)	6 (-20%)
その他	12	14	29	20	20	18	35	29	127 (+263%)	55 (+91%)	113 (40%)	37 (-13%)

資料：財務省「貿易統計」

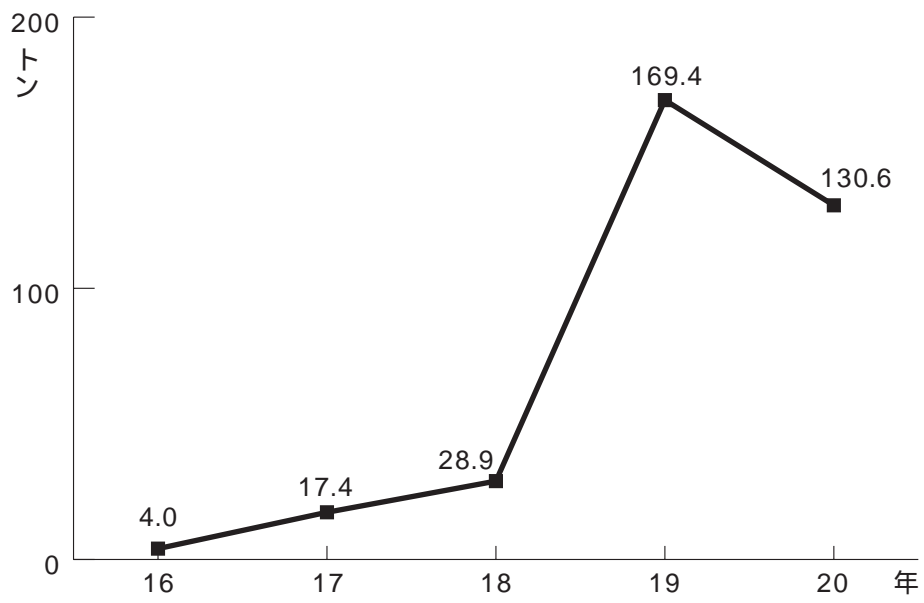
注1：()内は対前年同期増減率である。

注2：「その他」に含まれる国は、アルジェリア、オーストラリア、パナマなど 22ヶ国(9月)。

注3：数量においては1トン未満、金額においては1,000円未満はカウントされていないほか、援助用と推察されるものを除いている。

出所：平成21年11月 農林水産省
最近の米をめぐる関係資料

資料11 新潟県産米の輸出量推移



出所：新潟県 農林水産部より作成

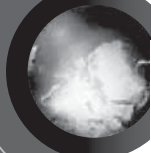
資料12 コメを活用した機能性食品例

○ 県内食品産業における米を使った機能性食品の例

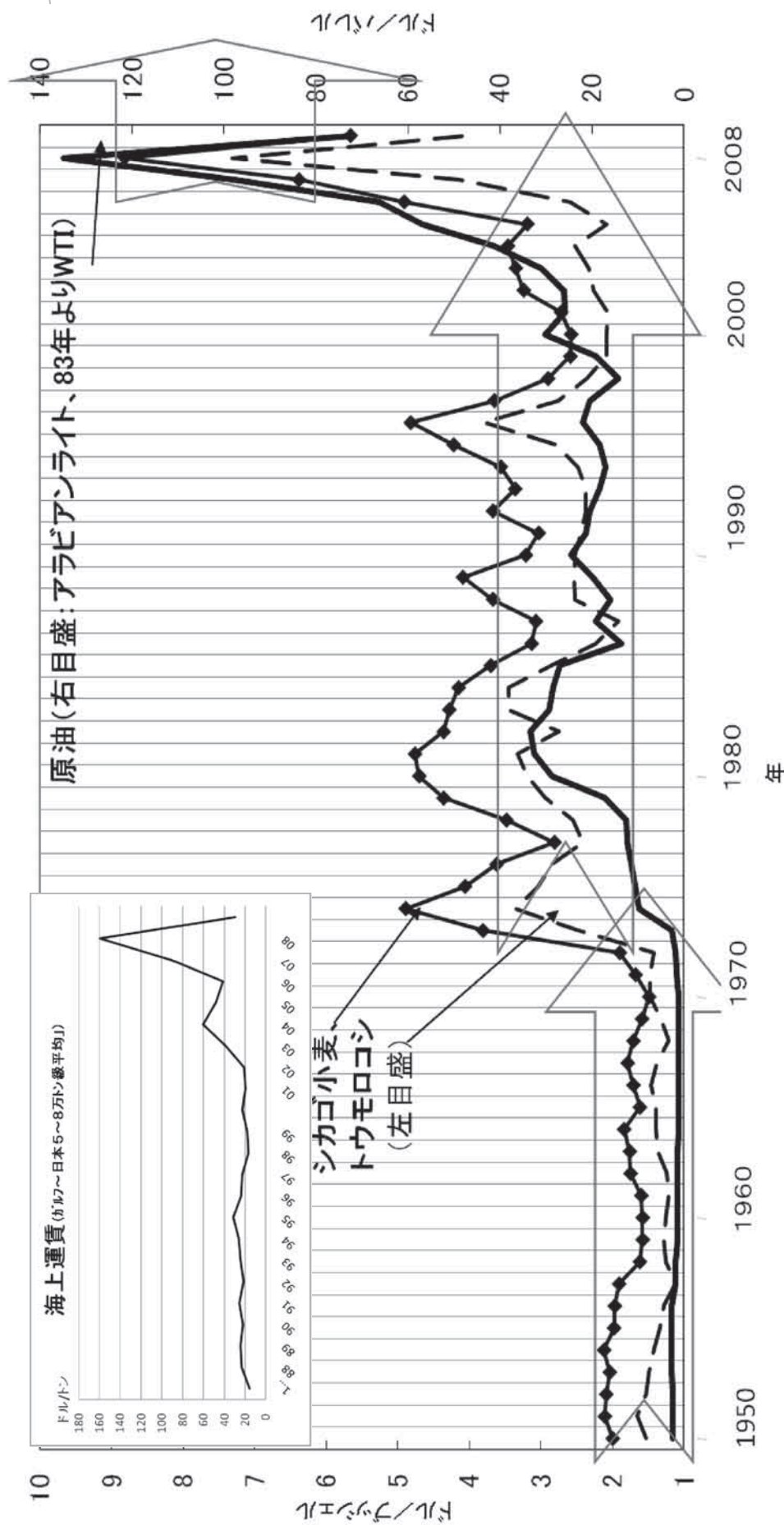
分類	技術区分	商品種類	商品名	会社名
米	発芽玄米	無菌包装米飯	発芽玄米	佐藤食品
			発芽玄米ごはん	亀田製菓
		シリアル食品	発芽玄米BAR	亀田製菓
		レトルトがゆ	発芽玄米がゆ	ヒカリ食品
			発芽玄米かゆ 発芽玄米十穀かゆ	たいまつ食品
		カップがゆ	発芽玄米お粥	マルシン食品
		餅	発芽玄米もち	
	低タンパク米飯	無菌包装米飯	ゆめごはんシリーズ	亀田製菓
			ピエールシリーズ	ホリカフーズ
			ひかりシリーズ	佐藤食品
			越後	ハイオテックジャパン
		乾燥米飯	はんぶん米	エコライス新潟
		餅	ひかりもち	佐藤食品
	低タンパク処理米	米	米粒タイプ	ハイオテックジャパン
	低アレルギー米飯	無菌包装米飯	A-カットごはん	越後製菓
			ケアライス	ホリカフーズ
	低タンパクパン	パン	越後の食パン	ハイオテックジャパン
			越後の丸パン	
		米粉パン	A-カットパン	越後製菓
	難消化性デキストリン	無菌包装米飯	からだサポートごはん	亀田製菓
		米菓	お腹に笑顔食物繊維入り柿の種、あられ	阿部幸製菓
ユニバーサルデザート	レトルトがゆ	白がゆ	ホリカフーズ	
		ふっくらおかゆ	亀田製菓	
米粉	パン	古代米パン 青刈稲パン	ボン・タケダ	
	クッキー	お米のクッキー お米&大豆クッキー	ボンオーハシ	
	玄米	ギャバ玄米粒	越後製菓	
低グルテリン米	清酒	初摘み春陽	原酒造	

出所：新潟県 農林水産部

資料13 第3ステージに入った資源価格



原油および穀物価格の推移



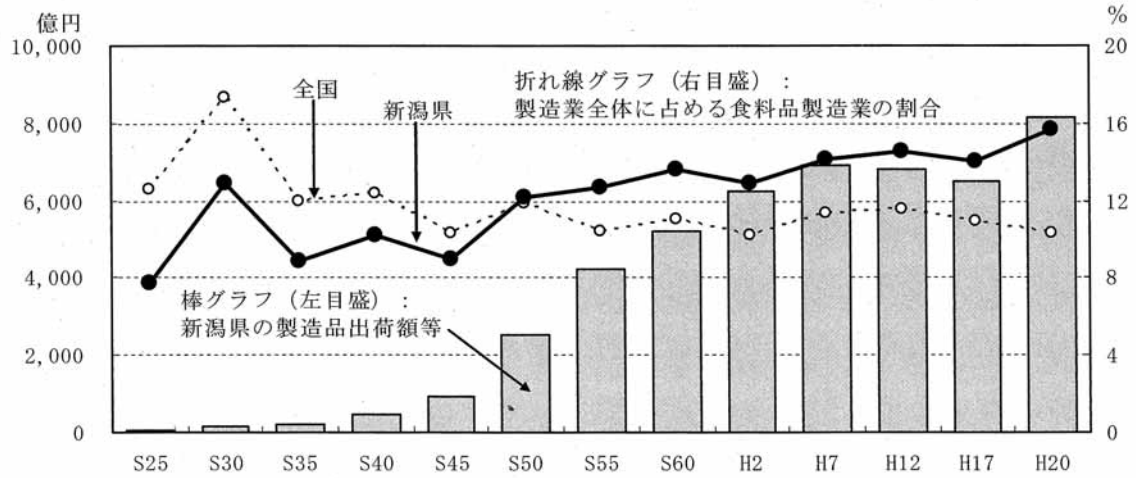
参考資料

(資料) 世銀、IMF

出所：丸紅経済研究所 講演資料

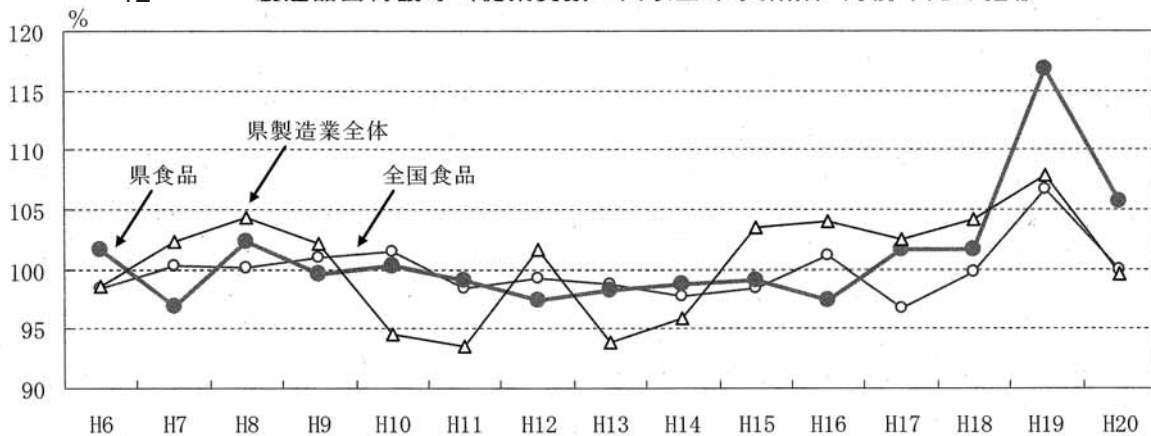
資料14 新潟県の食品産業の動き

12 - 食料品製造業の製造品出荷額等の推移（従業者数4人以上の事業所）



注1：食料品製造業には飲料・たばこ・飼料製造業を含む
 注2：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋加工賃収入額＋その他収入額
 資料：新潟県「新潟県の半世紀産業・経済50年のあゆみ」、経済産業省「工業統計表」

12 - 製造品出荷額等（従業員数4人以上の事業所）対前年比の推移



注1：食料品製造業には飲料・たばこ・飼料製造業を含む
 注2：製造品出荷額等には加工賃収入額、その他収入額等を含む
 資料：経済産業省「工業統計表」

出所：県経済の現況 09

資料15 - 続 新潟県の食品産業の動き

6 食品産業の動き

(1) 県内工業における食品産業の地位

～ 製造品出荷額は電気機械、一般機械に次ぐ第3位を確保し、前年比はほぼ横ばい ～

図4-6-(1) H19県内主要製造業種における製造品出荷額の構成（従業員4人以上の事業所）

電気機械	一般機械	食料品等	金属製品	化学	鉄鋼	衣料・その他1.0
19.9	14.4	14.3	12.1	9.1	5.5	その他 21.4
窯業・土石製品2.4						

表4-6-(1) 主要製造業種における製造品出荷額の推移（従業員4人以上の事業所）
（単位：千人、億円、%）

区分	従業者数						製造品出荷額					
	平16	平17	平18	平19			平16	平17	平18	平19		
				実数	対前年比	構成比				実数	対前年比	構成比
電気機械	34.0	34.7	35.3	35.4	0.3	17.4	10,292	9,624	9,411	9,242	△1.8	19.9
一般機械	26.1	27.5	30.0	30.2	0.7	14.9	4,683	5,215	6,330	6,664	5.3	14.4
食料品等	36.4	36.5	37.1	36.4	△1.9	17.9	6,350	6,449	6,555	6,612	0.9	14.3
金属製品	27.8	28.2	27.4	27.6	0.7	13.6	4,860	5,145	5,263	5,594	6.3	12.1
化学	6.5	6.7	6.7	6.5	△3.0	3.2	3,703	3,997	4,284	4,217	△1.6	9.1
鉄鋼	5.7	5.9	5.9	6.1	3.4	3.0	1,921	2,124	2,338	2,544	8.8	5.5
窯業・土石製品	5.3	5.4	5.3	5.4	1.9	2.7	951	988	1,028	1,094	6.4	2.4
衣類・その他	11.3	10.5	10.1	9.2	△8.9	4.5	614	533	506	477	△5.7	1.0
その他	44.8	46.5	45.6	46.5	2.0	22.9	8,889	9,199	9,460	9,919	4.9	21.4
全製造業	197.8	201.7	203.4	203.3	0.0	100.0	42,262	43,274	45,175	46,362	2.6	100.0

資料：新潟県総務管理部「にいがた県の工業（平成21年2月）」

注1：平19から製造品出荷額等に製造以外の転売収入等を集計することとなったため、平16～平19とも製造品出荷額のみを掲載

注2：食料品等とは、日本標準産業分類の中分類「09：食料品製造業」及び「10：飲料・たばこ・飼料製造業」を集計

表4-6-(2) 食品産業 業種別製造品出荷額の推移（従業員4人以上の事業所）（単位：億円、%）

区分	製品	製造品出荷額			平19		
		平16	平17	平18	出荷額	対前年比	構成比
食料品等		6,350	6,449	6,555	6,612	0.9	100.0
畜産食料品	肉・乳製品	623	590	683	577	△15.5	8.7
水産食料品	かまぼこ・海草・缶詰等	642	744	677	799	18.0	12.1
農産保存品	漬物・缶詰・びん詰	227	226	224	221	△1.3	3.3
調味料	みそ・しょうゆ・酢等	154	161	162	162	0.0	2.5
精穀・製粉	精米・小麦粉	326	296	254	258	1.6	3.9
パン・菓子	米菓・パン・その他菓子	2,116	2,176	2,295	2,315	0.9	35.0
酒類	清酒他	577	547	540	528	△2.2	8.0
その他	豆腐・麺類・惣菜他	1,685	1,709	1,720	1,752	1.9	26.5

資料：県総務管理部「にいがた県の工業」（平成21年2月）

注1：平19から製造品出荷額等に製造以外の転売収入等を集計することとなったため、平16～平19とも製造品出荷額のみを掲載

注2：食料品等とは、日本標準産業分類の中分類「09：食料品製造業」及び「10：飲料・たばこ・飼料製造業」を集計

出所：平成20年度 新潟県の農業

(2) 食品産業の全国における地位

～ 米菓、包装餅等、米を中心とした食品産業は全国トップクラスを堅持している ～

表4-6-(3) 新潟県の食料品等製造品出荷額の全国位置 (従業員4人以上の事業所)

(単位:億円、%)

平18	全国	新潟県	シェア	順位	備考
食料品	221,279	5,849	2.6	12	1位:北海道、2位:愛知、3位:埼玉
飲料・たばこ・飼料	96,091	706	0.7	28	1位:静岡、2位:栃木、3位:京都
計	317,370	6,555	2.1	—	

資料:経済産業省「平成18工業統計表(H20.3月)」

表4-6-(4) 新潟県の食料品等主要業種における製造品出荷額の全国位置 (従業員4人以上の事業所)

(単位:億円、%)

	平16		平17		平18			
	金額	全国シェア	金額	全国シェア	金額	対前年比	全国シェア	全国順位
米菓	1,283	44.4	1,336	46.2	1,411	5.6	48.1	1
切餅包装餅	290	58.7	331	61.0	323	△2.4	61.9	1
水産練製品	337	8.7	329	8.5	328	△0.3	8.7	2
清酒	548	9.4	518	9.4	509	△1.7	9.9	3
野菜漬物	182	4.2	173	4.1	171	△1.2	4.2	7
味噌	36	2.7	34	2.5	34	0.0	2.6	9

資料:経済産業省「平成18工業統計表(H20.3月)」

注:平16年調査分は、十日町市、川口町、旧山古志村区域内事業所は調査対象から除外。

出所:平成20年度 新潟県の農業

7. 地域委員会活動経緯

《地域委員会のこれまでの農業提言》

提言「新潟県の農業を考える ― 越の国が光り輝くために ― 」

平成17年6月発表

《平成20年度～21年度 テーマ》

「農業を軸とした新潟経済の発展の可能性」

《平成20年度活動》

回	開催日	内 容
	8月5日	(正・副委員長会議)
第1回	9月11日	今後の運営方針について
第2回	10月6日	(公開委員会) 「食料危機と貿易自由化と日本の食料・農業」 ― 今後のコメ生産調整等のあり方 ― 講師：鈴木宣弘 氏 東京大学大学院 農学国際専攻 教授
第3回	11月14日	(公開委員会) 「食料・農業問題の本質」 講師：神門善久 氏 明治学院大学 経済学部 教授
第4回	12月5日	(公開委員会) 「今後の資源動向と世界経済」 講師：柴田明夫 氏 丸紅(株)経済研究所 所長
	1月26日	(正・副委員長会議)
第5回	3月9日	(公開委員会) 「グローバル化と人口減少時代の農政改革」 講師：山下一仁 氏 東京財団・経済産業研究所 上席研究員

《平成21年度》

第1回	4月16日	(公開委員会) 「コメ農業の課題と改革の方向性」 講師：佐藤正志氏 全国稲作経営者会議 会長
第2回	5月11日	(例会) 「企業の農業参入の現状」 講師：金子弘道氏 鳥取環境大学環境政策学科 教授
第3回	8月5日	(公開委員会) 「農業現場の実際」 講師：坂巻幹夫氏 アール・イー・コンサルティング 代表 講師：宮尾浩史氏 宮尾農園
第4回	11月9日	(公開委員会) 「戸邊流コメ作りと地域活性化」 講師：戸邊秀治氏
	12月14日	正・副委員長会議
	1月27日	正・副委員長会議
第5回	2月15日	提言(案)の審議
	2月22日	正・副委員長会議
第6回	3月2日	提言(案)の審議
	3月8日	正・副委員長会議
	3月26日	幹事会付議

8. 地域委員会名簿

委員長	吉田至夫	[新潟クボタ・社長]
副委員長	菅原修孝	[日本政策投資銀行新潟支店・支店長]
	中野進	[シルバーホテル・相談役]
	八子淳一	[ホクギン経済研究所・社長]
	矢萩保雄	[東北電力新潟支店・支店長]
委員	秋元雅之	[損害保険ジャパン・新潟支店長]
	飯田浩三	[ホテル泉慶・社長]
	石黒義久	[丸新・副社長]
	石橋文夫	[JAバンク新潟県信連・代表理事専務]
	市村稿	[加賀田組・社長]
	内山節夫	[新潟経済社会リサーチセンター・理事長]
	大倉正寿	[伊藤忠商事新潟支店・支店長]
	大竹徳治郎	[扶桑畜産・社長]
	岡本茂	[日本通運新潟支店・支店長]
	川村英夫	[大林組北陸支店・支店長]
	川本和延	[新日本製鐵新潟支店・支店長]
	神田伸一	[中央補償鑑定・社長]
	菊池武人	[日本海エル・エヌ・ジー・社長]
	桐生伸一	[玉源・社長]
	古出哲彦	[大光銀行・頭取]
	小島廣保	[エヌシーイー・社長]
	齊藤茂	[旭電工・社長]
	坂井敬一	[キタカタ・会長]
	坂井浩	[ナカノアイシステム・社長]
	捧雄一郎	[コメリ・社長]
	佐藤博文	[日興コーディアル証券新潟支店・支店長]
	杉浦進	[新潟伊勢丹・社長]
	住吉正信	[鹿島建設北陸支店・支店長]
	清田雅人	[せいだ・社長]
	高澤敏夫	[アサヒビール新潟支社・支社長]
	高島文治	[新潟リョーシヨク・会長]
	高田政俊	[たかだ・社長]
	高橋秀之	[愛宕商事・社長]
	田中久美子	[クオリス・社長]
	田中直紀	[越後交通・社長]

田 村 貢	[アルビレックス新潟・社長]
敦 井 榮 一	[北陸ガス・社長]
徳 永 陽 二	[日通商事新潟支店・支店長]
中 原 均	[北原商事・社長]
中 村 彰	[ユアテック新潟支社・支社長]
並 川 栄 三	[藤木鉄工・社長]
西 村 可 明	[環日本海経済研究所・理事 所長]
野 崎 正 博	[一正蒲鉾・社長]
長谷川 康 之	[長谷川電気工業所・会長]
花 市 穎 悟	[開発技建・社長]
馬 場 宗 夫	[三菱商事新潟支店・支店長]
原 和 彦	[原信ナルスホールディングス・社長]
廣 田 幹 人	[新潟総合警備保障・社長]
藤 田 善 六	[藤田善六法律事務所・所長]
町 田 仁	[日産プリンス新潟販売・会長]
三 島 哲 郎	[三井物産新潟支店・支店長]
皆 川 義 雄	[皆川組・社長]
村 山 政 文	[村山土建・社長]
山 口 明 彦	[パナソニック関越支店・支店長]
山 下 俊 彦	[新潟県信用組合・理事長]
山 本 博 正	[当間高原リゾート ホテルベルナティオ・社長]
吉 井 雅 栄	[吉井国際特許事務所・副所長 弁理士]
吉 浜 紀 光	[大成建設北信越支店・支店長]
渡 邊 毅	[新成医会 みどり病院グループ・理事長]
渡 邊 泰 崇	[渡辺リネン・社長]

平成22年3月現在